

熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

52

2014 SPRING

特集 I

熊大の“知”を社会に還元

熊本大学の産学連携

特集 II

創造する森 挑戦する炎

コミュニケーションワードを活用した熊本大学のブランディング





CAMPUS SCENES キャンパスの風景

旧第五高等学校化学実験場

明治22年完成の国指定重要文化財。階段教室や薬品室、実験室などを備え、寺田寅彦ら幾多の俊英が学んだ。この春には(公社)日本化学会から「化学遺産」として認定を受けた。

「階段教室」は現在も使われており、毎年、新入生を対象に学長の講義が行われる。





熊本通信 vol. 52 2014 SPRING

熊本大学広報誌 熊本通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】	国立大学法人熊本大学 〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2-39-1 Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3007 sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp
【編集】	熊本通信編集委員会 田中 智之／委員長・大学院自然科学研究科 中川 順子／文学部 黨 武彦／教育学部 大脇 成昭／法学部 中田 晴彦／大学院自然科学研究科 永田 千鶴／大学院生命科学研究部 首藤 剛／大学院生命科学研究部 田中 尚人／政策創造研究教育センター 西川 洋子／マーケティング推進部広報戦略ユニット
【制作】	株式会社カラスプランニング

CONTENTS

03	新年度 学長インタビュー	世界に羽ばたく“人財”となれ!
05	特集Ⅰ	熊大の“知”を社会に還元 熊本大学の産学連携
11	研究室探訪	子どもの心と体の健康教育の実践者 いつも笑顔の養護教諭“保健室の先生”を目指す! 教育学部養護教諭養成課程 松田芳子研究室
13	特集Ⅱ	創造する森 挑戦する炎 コミュニケーションワードを活用した熊本大学のブランディング
15	国際交流	インタビュー 熊本大学から世界へ 渡辺裕太さん 世界から熊本大学へ マフォレ・プロスパー・ゴッドフリさん
17	卒業生ジャーナル	
19	KUMADAI TOPICS	
22	熊本大学基金よりお知らせ	

表紙／パーソナルビークル「STAVI」のカルガモ走行デモンストレーション

SPECIAL INTERVIEW

世界に
羽ばたく

ISAO
TANIGUCHI
PRESIDENT

能本大学附属図書館中央館にて

新しい価値を創造する時代へ

本学では、昨年10月に附属図書館中央館をリニューアルオープンしました。ここでは1階を移動の空間と位置付け、学生はもちろん、教職員や地域の方々など立場や考え方の異なる人々が集い、互いの意見に耳を傾けたり、議論を戦わせたりすることができる場となりました。

今の学生が社会の中心となって活躍するのは10年後、20年後。そのころには世の中は現在とは大きく変わっていることでしょう。以前の価値観が通用しない、既に用意された解法などない時代が訪れるのです。その中で輝くには、何が課題なのかを自ら見出し、新しい価値を創造することのできる人にならなければなりません。そのため力を身に付ける場として、さまざまな価値観が集まる新生図書館を活用してほしいと思います。

熊本大学の特質を集約した言葉

今、国立大学の在り方が問われています。また、社会の期待に応えるために、国立大学の機能強化を図る重要性もクローズアップされています。昨年度は、政府の「教育再生実行会議」等の提言に基づいて、国立大学の存在意義を明らかにする「ミッションの再

“人財” となれ!

熊本大学長 谷口 功

国立大学の在り方が問われ、大学改革が叫ばれる現在、熊本大学はその牽引役を担う立場にあります。

本学の学生には何が必要か、また、将来求められる人物像はどのようなものなのかを、就任6年目を迎えた谷口学長に伺いました。

定義」と呼ばれる文部科学省と大学との意見交換が行われ、6月には「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」が、11月には「国立大学改革プラン」が発表されるなど、大学改革が動き出しました。

そのような流れの中、昨年11月、本学の特質を集約したコミュニケーションワードを発表しました。「創造する森 挑戦する炎」という言葉には、木と木が共生し合う森のよ

うに各学部や関係機関等が横に連携して高め合い、熱い志を持って最先端の研究などに取り組むという本学の姿勢がよく表されているのではないのでしょうか(※1)。

より求められるグローバルな展開

また、昨年度の特筆すべき事項に、本学が「研究大学強化促進校(※2)」の一つ、い

わゆる「研究大学」に指定されたことがあります。国立私立立合わせ770校ある大学のうちの22校に選ばれたことで、国際社会の中で輝く大学であることがより明確になったといえます。今後は国際活動をさらに強化し、国際的により存在感のある大学となることが、本学には求められているのです。

本学に学ぶ学生は、世界の中の熊本大学の一員であることに自信と誇りを持ってほしい。そして、自ら進んで学修することで、世界に羽ばたく人財となることを期待しています。

※1 コミュニケーションワードを活用した本学のブランディングについては、P13~14の特集IIを参照。

※2 文部科学省が実施する研究大学強化促進事業。日本の研究力の強化を図るため、大学等の研究機関における研究マネジメント人材群の確保や集中的な研究環境改革等の、研究力強化の取り組みを支援する事業。



附属図書館中央館1階のアクティブエリアで学生と歓談する谷口学長



「工学部百周年記念館」前に並んだ松永研究室メンバーと「STAVi」1～3号機

特集I

熊大の知を社会に還元

熊本大学の産学連携

着脱式脱臭・脱硫装置
MOVENIC

熊本県
熊大 × 企業

→P10



食事用エプロン

KICO
熊大 × 企業

→P9



エプロンを着け自ら食事を取る「熊本県立松橋支援学校」の生徒



「ナカヤマ精密テクニカルセンター」にて談笑する新森助教と開発チームメンバー

さまざまな研究分野を有する総合大学として本学はその“知”の成果を地域社会へ、
そして日本、世界へと積極的に還元していくことが求められています。

“産学連携”はそのための有効な手段となり得ます。

この特集では、4つの事例を通して本学における産学連携の取り組みの今をご紹介します。

そのカタチは多種多様

結びつく熊本大学と企業

大学が企業と連携することは、社会や地域に貢献するのみならず、研究者や学生が持てる知識や技術を実際に生かすチャンスとなり、大学の研究・教育がますます活性化することにつながります。そのため、本学においても積極的に産学連携の取り組みがなされています。

本学における産学連携の拠点機関となるのは、「熊本大学イノベーション推進機構(以下「KICO」という。)」。

国内外の企業等と本学の研究とのマッチングを行うなどして両者を結び付ける役割を果たすほか、共同研究や受託研究などに伴う契約業務を支援するなど、多方面にわたって産学官連携を支えています。本特集で取り上げた「食事用エプロン」や「高精度タンパク質検出装置」は、「KICO」が深く関わった事例です。

しかし、本学と企業とが結びつききっかけはそれだけにとどまりません。「着脱式脱臭・脱硫装置MOVENIC」は行政機関である熊本県が企業と本学の研究者を仲介した例であり、「パーソナルビークルSTAVi」は、本学を含む産学官の多数の団体・個人が参加する組織「RIST」の中で生まれました。本特集では、多様なカタチから生み出される本学の産学連携の取り組みと、その成果をご紹介します。



熊本県阿蘇市にある日本リモニートの敷地内に置かれた脱硫塔

熊大の技術を提供し 中小企業の「夢」を実現

地元の中小企業を支援する役割

パーソナルビークル「STAVI」の開発は、半導体装置メーカー・株式会社サンワハイテック（熊本県菊池市）の山下和貴社長が語った「病院施設を移動できる乗り物を作りたい」という「夢」から始まりました。松永信智教授も参加する「RIST（※1）」の活動の中で表明されたその思いを形にすべく、平成23年に松永研究室をはじめとした熊本大学との共同研究が始まります。

同年に製作された1号機は介護や支援が必要な人をターゲットにしたものでしたが、翌年の2号機以降は、昨今のアクティビニア層の増加をビジネスの好機ととらえ、主なターゲットを要支援者へと転換。続いて開発された3号機が、平成25年にサンワハイテックが製品化・販売開始した「FICITE STAVI」のベースになりました。

松永教授は、「社会が喜ぶ、売れる商品を作ることは企業にとって大事なこと。技術を提供することによって、地元の中小企業に力をつけてもらうのも大学の大きな役割の一つだと思っています」と語ります。

画期的な福祉車両「STAVI」

「STAVI」は、前乗り式でベッドや車いすからの移乗を容易にし、介

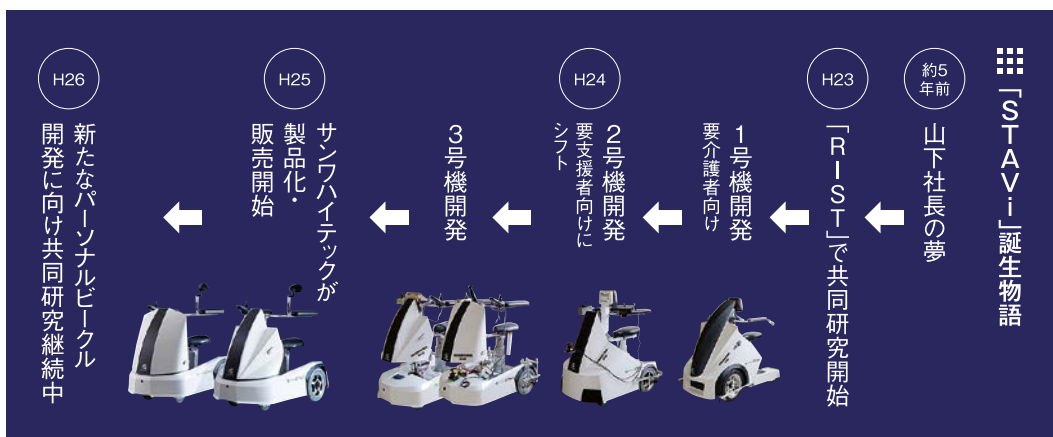
助者や高齢者の負担を軽減。また、座面を上下させることにより、目線が歩くときと同じ高さになるなど、これまでの福祉車両にはなかった画期的な特性を持ちます。その安全性と高機能性は高い評価を受け、平成25年春には「熊本県工業大賞」を、秋には「東京ビッグサイト」で開催された「中小企業総合展」において「ベストプラクティス賞」を受賞しました。

山下社長は「自社だけではこの短い期間に、ここまでとり着くことはできなかったでしょう」と言います。今年7月には、ルクセンプルクで開催される「ICT Spring 2014」にも出展予定だそうです。「ルクセンプルクでは『セグウェイ（※2）』が公道を走ってい



自動運転で「カルガモ走行」を行う「STAVI」。ある物体までの距離を回るセンサであるレーザーレンジファインダを用いて、前方の「STAVI」を追跡

ます。「セグウェイ」と並んで「STAVI」が街なかを走るのが次なる夢。それにはまた熊大の力をお借りしたいですね」。



大学院自然科学研究科
情報電気電子工学専攻
松永信智 教授



大学院生命科学研究部
生体情報分析医学
機能病理学分野
新森加納子 助教

尊敬し合えるパートナーと メイド・イン熊本を目指す

生物の体の主要な構成物であるタンパク質。しかし、その検出は極めて困難なため、いまだ大部分が解明されていません。新森

加納子助教は「二次元電気泳動」という手法を応用し、細胞に含まれる極めて微量なタンパク質を検出できる技術を確立しまし

た。そして、その技術を自動的に
行う装置を企業と共同開発しています。

「この検出技術には非常に
繊細で熟練した手作業を必要と
します。それを自動的に
に行える装置を開発するに
は、高い技術力を持つ企業の

力が必要と思いましたが」と話す新森助教。
「KICO」の呼び掛けに手を挙げた企業の
うち先生のパートナーとなったのは、小惑星
探査機「はやぶさ2」の重要なパーツも製作
している精密機器メーカーのナカヤマ精密株
式会社(本社、大阪市)でした。



「高精度タンパク質検出装置」のプロトタイプを点検する「ナカヤマ
精密テクニカルセンター」の緑均センター長

今、熊本県菊陽町にある「ナカヤマ精密テクニカルセンター」で、「高精度タンパク質検出装置」の開発が行われています。完成すれば誰もが容易にタンパク質の検出ができるようになり、早期のがん発見や創薬への活用が期待されます。ナカヤマ精密の緑均センター長は、「医療分野への挑戦は社として初めての取り組みであり、勉強になることも多い。人助けになることなのでやりがいを感じます」と、今回の共同研究の手応えを語ります。

この事業は平成25年度、経済産業省の「地域中小企業イノベーション創出補助事業」に採択されました。互いの高い技術を尊敬し合っているという両者。数年後、メイド・イン熊本の画期的な装置を世に送り出すため、強い連携のもと、研究・開発に励んでいます。

「行きたいところに行ける、幸せ

現在「STAVI」の開発には、制御分野を担当する松永教授をはじめ、画像や音声などを専門とする大学の先生たちが参加し、さらに高度な性能を付加する研究が続けています。「我々の仕事は、5年後の世界を創ること。大学はさまざまな技術を企業に情報提供し、実用化を目指していくのです」と松永教授は語ります。



株式会社サンワハイテック
山下和貴代表取締役

研究の中心を担う松永教授は、平成23年、1号機のプロトタイプを評価中に脳卒

中を起こして倒れました。その後奇跡的に回復し研究に戻ったとき、もの見方が大きく変わったそうです。「自身が身体障がい者となって初めて、行きたい時に、行きたいところに行けることがどんなに幸せなことか、どれだけ生きる喜びを与えてくれるのか、ということを実感しました」。

よく耳にするQOL (quality of life) という言葉の意味を、「行動範囲が広がり、多くの刺激を受け、生活が活性化すること」

と解釈する松永教授。「高齢化社会は世界規模で進み、福祉分野の研究開発は今まで以上に注目されています。高齢者のQOLの向上を後押しする『STAVI』の進化に期待してほしい」と語ります。

※1 F R I S T
くまもと技術革新融合研究会・産学官が一体となり、産業技術に関する基礎技術の研修・調査研究・共同研究・情報交換等を行うことにより、産業技術の開発および実用化を促進し、地域産業の技術高度化および関連企業の振興を図ることを目的とする組織

※2 セグウェイ
アメリカのセグウェイ社が販売する立ち乗り式電動二輪車

「より多くの人に食の楽しさを」 保護者の声から開発に着手



教育学部家政教育学科
雙田珠己 教授

地を、体に当たる裏面には肌触りの良い生地という3層構造になっています。「既存のエプロンは表面に撥水加工を施して

イク方法などの指導を行ってききました。そのような中で「外食するときには使えるおしゃれなエプロンが欲しい」「二人で着脱できるエプロンがあれば、着せてもらうのを待たずに食事を始められるのに」といった保護者の声が多く寄せられたことから、エプロンの開発に着手しました。

「こんなエプロンがあるといいな」

「運動機能に障がいがある人の衣服と衣生活」に関する研究に取り組む雙田珠己教授。障がいの被服を考える際には、本人やその介護に当たる人じかに接し、声を聞くことが不可欠です。そこで、研究活動の一環として、肢体不自由特別支援学校を訪問しての保護者や介助者を対象としたヒアリング調査や、着脱しやすい既製のリメ

あるものがほとんどで、水分がエプロンをつたって床にこぼれ落ちてしまいます。今回開発したエプロンは、表面は適度に水分を吸収しながら衣服までは浸透させない機能を持たせたところが画期的なのです」と雙田教授は語ります。

また襟元は、柔らかさと伸縮性を追求したリブ編構造を採用。首元にフィットし、食べこぼしが入り込むのを防ぐだけでなく、襟ぐりが柔軟に伸縮するため、片手で着脱が可能です。「支援学校の生徒さんや介護老人福祉施設の入所者の方々に試作品を使ってもらいながら、問題点を一つ一つ解決していきました。納得できるエプロンが出来上がり満足です」と雙田教授。

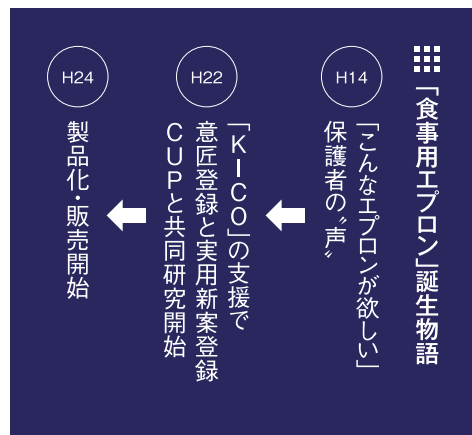
画期的なエプロンの誕生

完成したエプロンは、表面には吸水性の高い生地を使い、その下に防水性の高い生

理想の実現に必要な多くの協力

エプロンの開発には企業の協力が必要でした。CUPの大森芳郎課長

「食食用エプロン」の特長



阿蘇には、度重なる噴火により生み出されたりモノナイト(褐鉄鉱)が分布しています。

このリモノナイトを利用して脱硫剤を生産する株式会社日本リモノナイトは、使用後の脱硫剤を再生する技術を開発。

評価システムを開発し 企業の製品化をサポート

「大学との共同開発に関心があったことと、これまで介護スタッフのユニホームを扱ってきたので介護される側の商品も手掛けてみたい」と思ったことから、共同開発に手を挙げました」と当時を振り返ります。

「吸水性、防水性、耐久性そして着心地の良さを兼ね備えたものを作りたい」という雙田教授の思いに込められるものが既存の生地にはなかったため、CUPは素材から新たに開発。試行錯誤を重ね、無事商品化された現在、口コミや展示会などを通して

徐々に販路を広げているそうです。エプロン開発はCUPにとって初の産学連携の取り組みでした。大森課長は「使用された方から『ずっと探していたものがやっと見つかった』



シーユービー株式会社 大森芳郎課長

た」などと喜びの声をいただくこともあり、私たちにとって今後の励みになっています」と手応えを感じています。

また、「県立松橋支援学校」は、開発当初からモニターとして協力してきた施設の一つ。丸田奈美講師は「自力で食べようとする生徒の意欲や自信につながるとともに、介助者の負担も減りました」と話します。

多くの人々の協力を得ながら夢を実現させた雙田教授は、「おしゃべりは年齢や障がいに関係なく全ての人に共通する欲求です。



株式会社日本リモノナイト 辻誠課長

家で、国内外の企業とさまざまな共同研究・開発の実績がある戸田敬教授でした。

戸田教授は、脱硫特性に関する理論的・実験的検証を行い、さらには脱硫塔の評価システムを構築しました。「大学で得られた実験データや、実際の脱硫塔で得られた検証データによって、脱硫剤・脱硫塔の最適化に対してアドバイスできました」。

今後も改良を重ね、運動機能の低下した高齢者や障がいを持つ多くの方に使っていただきたいですね」と語ります。



「熊本県立松橋支援学校」 丸田奈美講師

こうして平成24年、着脱式脱臭・脱硫装置「MOVENIC」が完成。翌年には「熊本市ものづくり大賞」を受賞しました。

日本リモノナイトの辻課長は、「脱硫装置の性能のリアルタイム評価は従来この業界には無かったもの。気体や流体の解析や評価システム

の構築を、共に進めていける研究者がいる大学が地元にあるのは心強い」と本学との連携を喜びます。



大学院
自然科学研究科
理学専攻化学講座
戸田 敬 教授

再生にあたり生じる廃材の回収や安全性の問題を解決すべく、脱硫剤を装填する脱硫塔のカートリッジ化を試みます。その際、「県産業技術センター」から紹介を受けたのが、気体の分析・評価の専門

● 熊本大学の産学連携についてのお問い合わせ

「熊大ではどんな研究者が、どんな研究をしているの?」
「熊大の研究を当社の製品開発に生かすには?」
などのご質問・ご相談はこちらまで

熊本大学イノベーション推進機構
Tel.096-342-3209 Fax.096-342-3239
E-mail: liaison@jim.kumamoto-u.ac.jp
URL: http://www.kumamoto-u.ac.jp/organizations/kico

研究室探訪

Laboratory Exploration

松田芳子研究室

教育学部

養護教諭養成課程

松 田研究室の合言葉は「子どもの心と体の健康教育の実践者である養護教諭を目指そう!」。いじめや不登校、児童虐待、発達障害など、教育現場における児童生徒の心身の健康課題は多様化し、保健室は健康診断や救急処置などを行うだけでなく、保健指導や健康相談、地域社会とのよりよい関係づくりなど多くの役割を担う場となりました。養護教諭養成課程では、学校現場や医療機関、保健所などで実習を積み、実践的な力を養っています。

「幅広い年齢層の子どもの発育・発達についての知識と、心身の健康課題への対応能力が養護教諭には求められます」と話す松田先生。「例えば腹痛を訴える子どもが来室した場合、身体的症状に適切に対処した上で、その裏に不安や悩みを抱えていないかを的確に見極められる力が養護教諭には必要です。子どもの心身の様子をつぶさに観察し、迅速に適切に、かつ柔軟に対応できる力を身に付けなければなりません」。

研 究室では、さまざまなテーマを掲げ、グループ研究も積極的に行っています。平成25年度は、「保健だよりの意義とよりよい活用法について」というテーマで現職の養護教諭や他学部を含めた大学生にアンケート調査を行い、保健だよりの現状や意義について考察。心に届く内容やレイアウトづくりを模索しました。「養護教諭はほとんどの学校で一人配置です。また、専門性が高い職種のため、この研究室で得た仲間や相談し合える養護教諭同士のつながりを大切にしてほしいです」と松田先生。

今、松田先生は、現職養護教諭との勉強会を月1回開催し、現場の先生方との交流や学び合いを大切にしています。勉強会には学生も参加し、卒業研究に関してアドバイスをいただきました。「これからも子どもたちに元気を与えられる、笑顔がステキな養護教諭を目指して頑張ってくださいね」と松田先生は学生たちにエールを送ります。

lab's data

[松田研究室データ]

□ 研究テーマ

「養護教育学」、「健康教育」現在の研究課題

- I. 養護教諭の専門的役割に関する研究
- II. 養護教諭養成カリキュラム研究
- III. 心とからだの健康教育
- IV. 児童生徒学生の生活行動と心身の健康に関する研究



グループ研究のテーマに沿って学生が作成した「保健だより」。

□ メンバー

松田教授、大学院生1人、学部4年生6人

□ OB・OGの進路

公立・私立学校養護教諭、公立・私立学校養護助教諭、大学教員 ほか

Interview:

信頼される養護教諭を目指します!

教育学部養護教諭養成課程4年 青木 望美さん

私はとても健康で、保健室とは縁のない子どもでした。でも、高校時代、不登校や保健室登校を扱った新聞記事を読んで、私にも何かできることはないかと思ったことが、養護教諭を目指すきっかけとなりました。

養護教諭は幅広い知識が求められるため、講義の内容も多岐にわたります。一番驚いたのは“化学”があったこと。文系の私は化学をあまり習ったことがなかったので、周りのみんなに助けられてなんとか単位を取ることができました。

2年生の時から週1回のペースで参加している「ユアフレンド」活動は、子どもたちの成長の過程に立ち会うことができ楽しいです。最初はとっつきにくかった子も、少しずつ笑顔になり、素直な面を見せてくれるようになっていきます。精神的に変化していく姿を見られるのはうれしいです。

教員採用試験に合格したので、4月からは養護教諭としてのスタートを切ります。年代が近く、ついつい友達口調になってしまいがちですが、“子どもを育てる”立場であることをしっかり自覚しなければなりません。子どもたちからはもちろん、保護者や教員、地域の関係者など誰からも信頼される養護教諭になりたいと思います。



2012 Sep. コナン
3年次教育実習では中学1年生に「喫煙防止」をテーマに保健指導。
養護教諭養成課程は中学・高校の保健の一種免許も取得できる。

密着! 松田研究室

国立大学法人4年課程養護教諭養成機関があるのは九州で熊大だけ!
松田研究室の学生たちの姿を追いました。



子どもの心と体の健康教育の実践者 いつも笑顔の養護教諭“保健室の先生”を目指す!

2014
Feb.



みんなで「健康診断のお知らせ」掲示物を作成中。出来上がったら4月からの健康診断に活用する予定。

2014
Feb.



この日の現職養護教諭との勉強会では、卒論に関してアドバイスをいただいた先生方への感謝を込めて卒論の発表と報告を行った。

2013
Sep.



「教員採用一次試験に合格したらみんなで行こう!」と励まし合って試験勉強を頑張り、無事、全員で沖繩旅行。

熊大の特質が集約された
コミュニケーションワード

両角▼本学では2年前ワーキンググループ(以下「WG」という)を作り、熊本大学の本質あるいは魅力はなんだろう、ということ

討論してきました。その結果が集約されたものが、今回のコミュニケーションワード(以下「CW」という)です。本学が持つ特質を、社会のさまざまな方々にご理解いただきたい。あるいは、大学の構成員である教職



理事(副学長) /
ワーキンググループ座長
両角 光男

員・学生の皆さんにもそれを自覚して行動していただきたい。そのためツールとして誕生したのが、「CW」創造する森 挑戦する炎」です。本日は、WGのメンバーとしてCWを作る過程に携わった田中先生、水本先生、そして九州大学の清須美先生と、第三者的立場として、WGメンバー以外から糸先生にご参加いただきました。



九州大学大学院芸術工学研究院教授 /
ワーキンググループ学外アドバイザー
清須美 匡洋



学長特別補佐・
発生医学研究センター教授
糸 昭苑

田中▼CWの完成にあたって、感想が二つあります。まず、井上雄彦さんがお書きになった書が、朴訥とした熊大のイメージによく合っているということ。もう一つは、熊大の特質を表すものとして、WGの中で「水平」と「垂直」という言葉が盛んに使われたのですが、CWはそれをよく表しているなど。「創造する森」が「水平」、つまり地域も含めて研究や教育を支える充実した環境や基盤を、「挑戦する炎」が「垂直」すなわち先端的な研究や特徴的な教育をよく表現していると思います。

糸▼初めてこの言葉を目にした時、本当に力強く、まさに熊本大学を表す言葉だと思いました。よく学外の方から「熊大はどんなところなのか?」と質問されるのですが、長々と説明するより、こういう集約された言葉があった方がいいですね。

2年間に及ぶ討論の結果
熊大の持つブランド力が明らかに

清須美▼プロデューサーの立場から見ても、自分たちの最も伝えたいことを簡潔

挑戦する炎

井上雄彦 記す



ワードを活用した ブランディング

問われる時代となった。
特質とは、強みとは?
「創造する森 挑戦する炎」の
ネルディスカッションの様子から
グとは何かを考えてみよう

11月1日(金)、「工学部百周年記念館」
お披露目イベントに合わせて開催。
して積極的な意見交換が行われた。

熊大の
「資源」の一部



高い利便性と自然に恵まれたキャンパス



真摯に、堅実に学修に取り組む学生たち



調査・研究に活用される豊富な歴史資料



国指定重要文化財「五高記念館」

特集Ⅱ

創造する森

コミュニケーション 熊本大学の

全国的に、大学の在り方が他大学とは違う、本学の昨年11月、コミュニケーションワード披露に合わせて開催された熊本大学のブランディング

本パネルディスカッションは、平成25年で行われたコミュニケーションワード『熊大のイメージは膨らむか?』と題



学長特別補佐・自然科学研究科准教授／ワーキンググループメンバー
田中 智之

に、力強く表現している、素晴らしい言葉だと思えます。井上さんに揮毫をお願いしたことで、ビジュアル的にも強化されました。それらを外部に委託するのではなく、自分たちで作り上げたことに、一番の価値があります。

田中▼このCWにたどり着くまでには、2年間のWGの中で膨大なプロセスを経てきました。まず行ったのは熊大とはどんなところか、つまりブランド力となる資源を洗い出す作業。例えば、大学を取り巻く環境だとか学生の資質など

です。次に、これから大学が目指すべき、周囲に及ぼす効果を整理しました。その上で、熊大がどのような価値を持つ場所なのかを大きく三つにまとめました。①地域に身近で、世界つながる、コンバクトユニバーシティ ②実践的課題解決力を持つ、粘り強いパワーリーダー育成 ③歴史と環境を活かし、イノベーションを創出する知的パラダイム というのがそれです。そうやって徐々に集約されていく中で、熊大のブランド力やイメージを体現するも

のとして生まれたのが「創造する森 挑戦する炎」でした。

ブランドとしての熊大を発信するため重要なのは共通認識

水元▼本学には今回のCWのほか、校章とコミュニケーションマークがあります。今後はそれらを、どう戦略的に使っていくかが重要になってきます。私たち教職員や学生が、それらが作られた意図を理解していないと、ブレが生じてしまい、熊大のブランドイメージが拡散してしまうのではないのでしょうか。

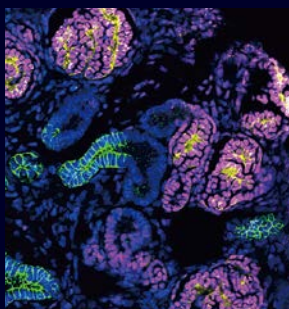
両角▼私たちが日々、何を大切にしているべきか、ある程度の共通認識を持って活動していくこと、そして、そのイメージを言葉として外部に伝えていくことによって、ブランドとしての熊本大学を高めていくことになる、ということですね。その言葉がすなわち、「創造する森 挑戦する炎」なのだということが分かりました。



文学部教授／ワーキンググループメンバー
水元 豊文



コミュニケーションワードは、かつて本学に在籍した、墨と筆による気迫溢れる画風でも知られる漫画家・井上雄彦氏に揮毫を依頼、より印象的で力強い言葉となった。パネルディスカッションは井上氏のポスターを掲げて開催された。



世界をリードする最先端の研究



環境研究のフィールドの一つ「有明海」

水環境汚染の実態把握を目指し ベトナムの水中における化学物質を調査

大学院自然科学研究科 理学専攻 博士前期課程1年
渡辺裕太さん

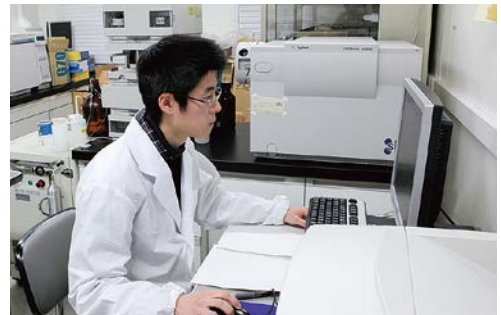
2013年10月から12月にかけてベトナムに留学し
河川や地下水などからサンプルを採取した渡辺裕太さん。
水環境中における化学物質のデータに乏しい現地の
人工甘味料などの濃度分布を把握すべく、測定・解析に取り組んでいます。



ハノイ、ハイフォン、ハロンの3市の排水処理場や河川、地下水から
サンプルを採取。写真はハノイ市。

私は、地下水中に含まれるPPCPs(※)の測定を行っています。中でも注目しているのがアセルフアムやスクラロース、サッカリンといった人工甘味料です。天然には存在しないこれらの物質が環境中から検出されるということは、何かしら人間の影響があることを意味しています。

ベトナムは近年急激に発展している国ですが、残念ながら環境への意識は必ずしも高くなく、下水が河川へ垂れ流しになっている状態です。また、環境中に排出される化学物質のモニタリングも十分ではありません。熊本で測定しているような物質がベトナムではどのように分布しているのかを調査するため、昨年10月から12月にかけて現地に赴きました。



HPLC-MS(写真奥)を用いてサンプルの解析を行う渡辺さん。「ベトナムはPPCPsに関するデータに乏しい。まずは分布状況を把握することが大事です」。

※PPCPs…Pharmaceuticals and Personal Care Products(医薬品類および生活関連物質)の略。例えばアセルフアムが高濃度で検出される場合、人為的な影響を強く反映していると推察できる。

ベトナムでは本学と学術交流のある「ハノイ建設大学のバッチ先生の研究室に所属。首都ハノイなど3カ所でサンプルを採取し、分析の前処理を行いました。帰国した今は、HPLC・MS(高速液体クロマトグラフ質量分析装置)を用いて解析を行っているところです。

留学前は言葉や文化の違いなどに不安もありましたが、行ってみて思ったのは「なんとかなるもんだな」。研究室内にとどまらずたくさんの友人もでき、プライベートでもまた訪れたいと思うほど、現地に溶け込むことができました。

将来は高校の教員を目指しており、生徒には海外に飛び出すことを勧めたいと思います。行って得られるもの大きさを、自らの経験として伝えたいですね。



International exchange Report
国際交流レポート
平成25年12月
～平成26年2月

12 / 3

熊本大学留学生交流ハローデーを開催
本学で勉学・研究に励む留学生およびその指導教員、チューター、学外関係者など約320人が参加し、親睦を深めました。



5

X線CTの工学への適用に関する国際ワークショップを開催(6日まで)
国外から4人の研究者をお招きし開催。工学部百年記念館にて、100人を超える方々が参加しました。



7

留学生シンポジウムに参加
熊本留学生交流推進会議の主催で留学生と熊本県民の交流を目的として開催され、留学生など約130人が参加しました。

12

「第8回学生国際会議(CAST 2013 Kumamoto)」を熊本大学で開催(13日まで)
自然科学研究科主催。学生が運営し、本学から116人、海外から約60人の学生が参加しました。



14

外国人留学生のための就職合同説明会
熊本県、大学コンソーシアム熊本などの主催で開催され、本学からも留学生が参加し、留学生の雇用を予定している県内企業などの説明を聞きました。

世界から熊本大学へ

熊本の人たちの “ガンバリマス精神”に感動!

大学院自然科学研究科 情報電気電子工学専攻 博士後期課程2年
マフォレ・プロスパー・ゴッドフリさん

2012年に熊本大学にやって来た
タンザニア出身のマフォレさん。
スマートフォンやタブレット型端末の
消費電力を抑えるための研究をしています。

タンザニアの「ダルエスサラーム大学」で2年間工学部の助手を務めた後、日本の最新コミュニケーション工学を学びたくて、奨学生として熊本大学にきました。タンザニアでは、コミュニケーションの手段としてスマートフォンやタブレット型端末が急速に普及しつつあります。私はワイファイ環境下で携帯用デバイスの消費電力を抑えることができるシステムの構築に向けて、シミュレーション実験やプログラム設計、データ集積などを行っています。

私が感銘を受けたのは、熊本大学の先進的な技術のみならず、ラボの先生や友人が持つ「ガンバリマス精神」です。自分の目標を達成するために、全てのエネルギーを注ぎ込む姿勢は、学業だけでなく、熊本の人たちの



研究室では常にパソコンのディスプレイと向き合い、膨大なデータの解析を行う。



2012年8月、石川県で開催された留学
生交流イベント「JAPAN TENT」に参加
し、尺八演奏を体験するマフォレさん。

普段の暮らしからも感じる事ができます。来日して間もなく、私は九州北部豪雨を経験しました。当時、黒髪の学生寮に住んでいた私は、窓から見たヘリコプターによる救助や住民同士が助け合う姿、行政がメールや放送で呼び掛ける迅速な対応に感銘を受けました。その後も、次の豪雨に備えるために、今回の災害の原因を究明したり被害対策を科学的に検証したりする姿が印象的でした。また、熊本市は豊富な地下水に恵まれているにもかかわらず、盛んに節水教育がなされ、それは子どもたちにも行き届いています。一つの事柄に対して、ベストを尽くそうとする熊本の人の「ガンバリマス精神」は、世界に誇れるものだと思います。

私の故郷であるモシ市は、キリマンジャロの麓にあります。コーヒーとバナナが特産のどかな町で、世界中から観光客が訪れます。将来はふるさとの大学に戻り、熊本大学で出会った仲間たちと情報交換をしながら、母国の技術の発展に貢献したいと思っています。

19 短期留学コース開講式を実施



2012年8月、石川県で開催された留学
生交流イベント「JAPAN TENT」に参加
し、尺八演奏を体験するマフォレさん。

13 留學生実地見学旅行を実施(14日まゝ)

本学留學生などが日本の歴史・文化・風土および現在の科学技術などを実際に体験する(この日)。

深めるため、大分県を訪問しました。竹細工に挑戦するなど、約100人が楽しみました。

2 / 12 日本語研修コース修了式を実施



留學生実地見学旅行を実施(14日まゝ)

21 教育学部留學生交流ハーターキーを開催

教育学部国際交流委員会の主催で、留學生との交流を目的にハーターキーを開催しました。留學生、チューター、教職員38人が参加しました。

1 / 10

ハビエール教授を招いての磁性の講演会を実施



分子性磁性体の磁気構造決定について先駆的な研究を展開するハビエール・カンボ教授(スペイン・サラゴサ大学)による最新研究についての講演が行われ、約50人が参加しました。

16 「日中交流国際生命科学シンポジウム」を開催



平成16年から中国または熊本を会場に、生命科学研究部が開催しています。今年度は第9回シンポジウムが山東大学で行われました。各大学学部紹介や研究発表、情報交換が行われ、教員・学生ら約80人が参加しました。

法

大学で学んだ法の知識は 現在の仕事にもフル活用



富永 真李菜

Marina TOMINAGA

株式会社DNP西日本
(福岡) 勤務

法学部法学科・平成23年度卒

昭和63年生まれ、長崎県長崎市出身。長崎県立長崎西高校卒業。現在は、福岡の町をドライブしたり散歩したりするのがマイブーム。

熊大のココがイイ!

熊本の自然と
人の温かさが
凝縮された場所。

世の中の根本を支える
法を学ぶため法学部を目指す

高校の時は特に将来の夢は定まっておらず、いろいろな職業に憧れていました。良く言えば、広い視野で物事を考えていたのかもしれませんが。そのため、世の中の根本を支える法を学ぶ法学部への進学を志望しました。また、地元を離れた土地へ行き、自分の力で生活したいと県外の大学を選びました。

勉学と遊びにメリハリをつける
仲間の姿勢はいい刺激に

大学入学当初は慣れない一人暮らしに戸惑いを感じましたが、熊本の人々の温かさに触れるうちにその不安もなくなりました。学部の仲間は皆、勉学と遊びにメリハリをつけており、いい刺激を受けました。就職が決まった後、国内外を問わず旅行したことで、視野を広げられたと思います。

人間関係も法の知識も
大学で学んだことを仕事に生かす

今は印刷会社で営業をしています。お客さまや社内スタッフとの信頼関係が重視される職種です。大学時代、店舗のオープニングスタッフとして仲間と働いた経験が、人間関係の構築に大いに役立っているようです。また、印刷物の表示には法律問題も関わってくるため、景品表示法や薬事法など、大学で学んだ知識も最大限に生かしています。

卒業生 ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの「今」に迫る
「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する
先輩たちのこれまでの歩みや苦勞、
そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。

理

公害の発生を未然に防ぎ 工場と住民の安全を裏から支える



坂口 統

Osamu SAKAGUCHI

凸版印刷株式会社
福岡工場 勤務

理学部理学科・平成22年度卒／大学院自然科学研究科博士前期課程・平成24年度修了

平成元年生まれ、熊本県熊本市出身。私立熊本学園大学付属高校卒業。新しい土地に行くのが好きで、休日は自転車で乗り遠くまで出掛けることも。

熊大のココがイイ!

“自分”を持って
何事にも真面目に
取り組む人ばかり。

パズルを解くように
自然現象の真理を解く科学に興味

高校生のころ、パズルのように小さなピースを組み合わせて一つの自然現象の真理を解いていく科学という学問に興味を持っていました。専門に限らず、幅広く知識が要求される分野で、広い視野を有する技術者になりたいと考えていました。

何事にも全力で取り組み
さまざまな価値観も知った大学時代

大学では化学を専攻。研究室に配属後は、金属原子を扱う無機化合物の合成について研究しました。学問やバイト、サークル、遊びと興味のあることに全力で取り組み、その中でいろいろな価値観を持った人と出会い、一つの物事にもさまざまな角度の考え方があることを知りました。

環境整備の仕事は、人々と環境を守る
重要でやりがいのある仕事

現在の仕事は、印刷の工程で出る環境負荷物への対応です。裏方的な業務であり、業績には直接つながりにくい部門ではありますが。しかし、排水・排ガス処理はひとつ間違えば公害となり、人や環境に被害を与えてしまうため、無くてはならない部門です。安全を守るためなら私のような若手でも存分に意見でき、新たなことにもチャレンジできることが、やりがいだと感じています。

医

多くの人に健康と笑顔を届ける 信頼される保健師に



古川 千扇

Chihiro FURUKAWA

熊本県東北広域本部
阿蘇地域振興局 勤務

医学部保健学科・平成24年度卒

平成元年生まれ、熊本県菊池市出身。私立真和高校から熊本大学を経て看護師・保健師免許取得後、熊本県職員に。将来の夢は多くの人から頼られる保健師になること。趣味は買物と食べること。

熊大のココがイイ!

雲気が明るく、
先生方も優しく、
悩んだ時に
親身になって相談に
乗ってくださるところ。

大切なのは病気になる前の
予防と実感した高校時代

もともと医療関係の仕事に興味があり、人の役に立つ仕事、人を笑顔にする仕事をしたいと思っていました。また、病気で寝たきりになった祖父の姿を見て、そうなる前の予防が大切だと痛感し、健康の維持促進および病気の予防に携われる職業に就きたいと思いました。

大学での学びが進むにつれ
進むべき道が明確に

1~2年のころはバイトもしましたが、友人と旅行するなど遊ぶことも多かったです。3年になると実習が始まり、担当保健師の仕事に取り組み姿に感銘を受け、保健師になりたいと思い始めました。4年では本格的に保健師になろうと決め、そのための勉強に励みました。

地域の人々を笑顔にしたい!

保健師の仕事に感じる責任とやりがい

現在は主に母子保健に関する業務を担当しています。家庭訪問や住民からの相談対応、地域の関係機関を集めての研修会や会議の開催など、住民だけでなく多くの関係機関とも関わりながら仕事をしており、大きな責任とやりがいを感じています。最初は何か分からなかった私も、上司や先輩方の助言をいただき、少しずつ手順を覚えてきました。今後も地域の母子保健の向上に努めていきたいと思っています。



さらなるレベルアップを目指し この春、再び学生に



福田 佳奈子

Kanako FUKUDA

都城工業高等専門学校
(宮崎) 勤務

文学部文学科・平成17年度卒

昭和58年生まれ、宮崎県北諸県郡三股町出身。宮崎県立都城泉ヶ丘高校卒業。大学では中世英文学を研究。趣味は観劇、F1観戦、ジョギング。熊本城マラソン出場を目指し日々トレーニング中!

熊大のココがイイ!

先生方の指導が丁寧。
職員の皆さんも親切!

英語は人の気持ちをつなぐツール
大好きな英語で人の役に立ちたい

大好きな英語を使う職業を意識し始めたのは、高校時代に所属していた茶道部でのお茶会でALTとその家族の通訳を務めた時。状況や思いをくみ取って人と人の気持ちをつなぐことにやりがいを感じ、英語で人の役に立つ仕事をしたいと思うようになりました。英語はツールなのだ気付いたのもこのころです。

素晴らしい友人と充実した講義

英語の授業資料は、今でも活用

文学部文学科には女子が多く、とても華やかでした。勉強、サークル、恋愛、進路などについて語り合い、多くの素晴らしい友人を得ました。講義も楽しく、特に英語史論と英語学概論の授業では好きな英語をさらに深く学ぶことができ、熊大に来て良かったと思えました。当時のノートやプリントは今でも勉強の材料にしています。

勉強熱心な学生に刺激され

今春から熊本大学大学院へ進学

英語科の教員として県立高校に7年勤務した後、現在は高等専門学校(高専)で働いています。15歳から20代の個性豊かな学生と過ごす毎日は刺激的です。勉強熱心な学生と自分自身のために学識を深めたいと思い、昨年、熊大大学院の社会人入試を受験しました。卒業8年目にして今春から母校に戻ることに、喜びと勉学に励む意欲でいっぱいです。



子どもたちに自信や希望を 与えられる教師でありたい



渡邊 香織

Kaori WATANABE

山都町立蘇陽南小学校
(熊本) 勤務

教育学部小学校教員養成課程・平成18年度卒

昭和60年生まれ、熊本県山鹿市出身。熊本県立鹿本高校卒業。趣味は旅行と映画鑑賞。将来の夢は、教員と一緒に飲み、当時の思い出を語り合うこと!

熊大のココがイイ!

夢に向かって
共に頑張る仲間と、
親身になって
応援してくださる
先生方がいること。

恩師との出会いで

幼いころからの夢が明確に

小学生のころから教員を夢見ていましたが、中学生の時、恩師である部活動の顧問の先生との出会いがあり、その思いはさらに強くなりました。学業や人間関係で悩んでいた私に、先生は親身になって話を聞いてくださり、進むべき道を教えてくださいました。恩師のように生徒に自信や希望を与えられるような存在になりたいと、はっきりとした夢が見えてきました。

仲間と一緒に夢に向かって歩んだ

宝物のような4年間

仲間と思い切り遊び、笑い、時には夜遅くまで語り合った大学時代の4年間は、私の宝物です。教育実習では子どもたちの目の輝きや創造力の豊かさに感動を覚え、日々成長していく姿に教員という仕事の魅力を改めて感じました。採用試験に向けて、くじけそうになったこともありましたが、共に学び合った仲間が、何よりも心の支えになりました。

教職に就いて7年

自分磨きはこれからも

夢だった教員という仕事に就いて7年。失敗することや反省することもありますが、毎日新しい発見があり、子どもの成長を間近に感じることができるこの仕事が好きです。これからも学ぶ姿勢を忘れず、向上心を持ち続け、そして、たくさんの出会いやつながりを大切にしながら、自分を磨いていきたいと思っています。



品質保証分野のプロとなり 質の高い薬を安定供給したい



村上 徹

Toru MURAKAMI

テバ製薬株式会社
高山工場(岐阜) 勤務

薬学部薬科学科・平成14年度卒/
大学院薬学教育部分子機能薬学専攻博士前期課程・平成16年度修了/
大学院薬学教育部分子機能薬学専攻博士後期課程・平成19年度修了

昭和56年生まれ、熊本県熊本市出身。熊本県立熊本西高校卒業。将来の夢は世界一の品質を実現する薬品製造システムを作ること。趣味はボウリング。

熊大のココがイイ!

自然に囲まれた
キャンパスで
楽しく学び、成長できる。

生命の営みのすごさに気付き

ミクロ視点の科学に興味

小学校高学年ごろから科学雑誌「ニュートン」を愛読し、理系研究者を夢見ていました。高校時代、生物が生きていることは当たり前のようにいて、化学反応や分子生物学的にとてもすごいことが狂い無く繰り返されているという事実に思い至り、生物と有機化学に興味を持ちました。そのころ祖母が体調を崩していたこともあり、創薬分野を目指すようになりました。

仲間に恵まれ充実した研究室生活

創薬研究の奥深さを知る

学部生のころは、高校の時とは次元が違う授業について行くので精一杯でした。研究室に配属されてからは、素晴らしい先生・先輩方、同期の仲間そして後輩たちに恵まれ、とても楽しく研究室生活を送ることができました。また、創薬研究の面白さと同時に難しさを学びました。

薬は品質が安定していることが大事

目指すは品質保証分野のプロ!

薬は良い成分が見つければ完成ではなく、製剤化して安定供給する必要があります。私は製剤工程中で製品品質の不安定化につながる要因を探して排除する業務を担当しています。ジェネリック医薬品世界No.1の売上高を誇るメーカーの品質保証システムの手法を、自分のものとすることによって、その分野のプロになりたいと思っています。



海外勤務6年目 開発・設計の最前線で活動中



坂本 勝哉

Katsuya SAKAMOTO

Panasonic Industrial
Devices Sales
Taiwan Co., Ltd. 勤務

工学部材料開発工学科・平成9年度卒/
大学院自然科学研究科機械システム専攻前期課程・平成11年度卒

昭和50年生まれ、長崎県長崎市出身。長崎県立長崎南高校卒業。小さいころからラグビーを続けており、台湾では日本人駐在員でチームを結成。定期的に台湾チームと試合している。

熊大のココがイイ!

繁華街に近い。
学食がおいしい。
南食堂の
カツカレー牛とじ丼は最高!

理系に進むなら、ものづくりで

人のためになる仕事を

当初は小学校の教員になることが夢でした。しかし、文系科目の成績が目も当てられなかったため理系を選択せざるを得ず、教職の道は断念。就職先が多彩な工学系に進み、ものを作って人のためになる仕事がしたいと考えるようになりました。

真に自分を成長させてくれたのは

仲間と“バカ”をやった時間

大学では授業は休まず出席しましたが、勉強は試験前のみ図書館にこもってやっていました。学業や研究より、心から信頼できる友人や先生方と出会い、朝まで酒を酌み交わしたり徹夜でマージャンしたりしたことの方が、自らの成長につながったと感じています。一緒にバカをやっていたメンバーとは今も飲みにいけます。

世界の開発活動の最前線で活躍

多彩な国の人との出会いは最高の教材

大学で得た流体機械の知識を生かし、入社後からカーナビやノートパソコン用冷却ファンの開発を担当。現在は、世界のノートパソコンの90%を開発・設計する台湾で、最前線の開発活動に携わっています。ここには多彩な業種の日本人駐在員でチームを結成。定期的な台湾チームと試合している。

REPORT

ねんど教室
「おひなさま」を開催

2月7日(金)に教育学部東棟で、教育学部附属幼稚園年長組の園児34人を迎えて、「ねんど教室『おひなさま』」を行いました。

美術科の緒方信行准教授と学部生、院生が先生役になって園児たちを熱心に指導。園児たちは楽しそうにねんど工作に取り組み、1時間ほどで全員がお内裏さまとおひなさまを完成させると、さらに動物を作るなどして充実した表情を浮かべていました。

作品には園児たちの名前が入れてあり、教育学部の窯で素焼きした後、附属幼稚園に渡されます。「出来上がりが楽しみ!」「先生、ありがとうございました!」と、園児たちは終始目を輝かせていました。



楽しい雰囲気の中、
かわいいおひなさま
が出来上がった

REPORT

「熊大歌留多読み札」コンクールの
受賞作を表彰しました

表彰式に出席した入賞者と谷口学長

2月18日(火)、「熊大歌留多読み札」コンクール表彰式を行いました。昨年度は31の頭文字から始まる作品を選考し、本年度は「を」や「ん」を除く残る13文字を募集。学生や教職員、本学の附属小・中学校の児童・生徒などから2,700を超える応募があり、う

ち23点を表彰しました。

最優秀賞は附属中学校1年(当時)の緒方萌乃さんの作品「本荘の 緑豊かな 病院に 命をつなぐ 心ありけり」。夏休みに本学附属病院の見学ツアーに参加した際、懸命に働く職員の姿を見て「ここは命をつなぐところだな」と感動したことからこの歌が生まれたそうです。

谷口学長はあいさつの中で、「全ての読み札がそろい、本学の魅力はほぼ網羅されたのではないのでしょうか。今後はこれらの作品を使って本学の魅力を学内外にアピールしていきたいと思います。素晴らしい作品をどうもありがとう」と話しました。



学長から表彰状を受け取る入賞者

REPORT

「くまもと都市戦略会議」が開催されました

熊本県と熊本市、熊本大学、熊本の経済2団体のトップが集う「くまもと都市戦略会議」が2月3日(月)、県庁で開催されました。この日の会議では、熊本の都市としてのイメージを首都圏を中心に情報発信していくためのキャッチコピー「学モン都市クマモト」などが決定されました。

キャッチコピーの選定を含む企画コンペの審査には、本学を中心に学生たちも加わりました。2月中旬から広報展開がなされており、大学の学校紹介のイベントなどに活用するほか、首都圏のJR主要駅にある電子看板でも紹介されました。

谷口学長は「キャッチコピーやポスターをあらゆるシーンで活用し熊本の認知度を上げることで、いずれはこの地で多くの人々が交流することにつながりたい」と意気込みを語りました。

握手する蒲島都府熊本県知事(左)と谷口学長



「学モン都市クマモト」のPRポスター

REPORT 「東京大学・熊本大学硬式野球部交流戦」7対2で快勝!

2月26日(水)、「川上哲治記念球場」(人吉市)で本学と東京大学の硬式野球部の交流戦が行われ、雨天の中熱戦が繰り広げられました。東大の選手たちへお土産を贈呈するなど和やかな雰囲気の中、東大の先攻でプレーボール。1回裏、教育学部4年・森山将志選手がスクイズを決めて先制点を挙げると勢いに乗り、熊大は序盤で5点をリード。東大は3回に2点反撃したものの4回と7回に追加点を許し、7対2(7回雨天コールド)で熊大が快勝しました。

谷口学長が、かつての一高と五高の伝統を刻む大学同士で試合をと、自ら



東大の濱田純一総長に話をもち掛けて実現した初対決。工学部4年・宮木俊主将は「川上さんゆかりの球場で伝統ある大学との初試合に出ることができて、本当にうれしい。9回まで

やりたかったですね」。山口俊介監督は、「川上さんは私にとって高校の大先輩。野球が初めて伝わった“一高”との試合をこの球場でできて感無量です」と語りました。

INFO 熊本大学埋蔵文化財調査センター「地下と地上の文化財散歩」

本学は県内有数の遺跡の上に立地しており、開発工事に先立つ発掘調査で、縄文～江戸時代の生活の跡が見つかっています。昨年度開催し好評をいただいた黒髪地区のほかに、今回は本荘地区でも開催します。黒髪では昨年オープンした当センターの遺物展示もご覧いただけます。

日時・場所／

5月12日(月)～14日(水) 13:00～
黒髪キャンパス(集合:黒髪南キャンパス総合情報基盤センター入口)

5月15日(木)・16日(金) 13:00～
本荘キャンパス(集合:本荘北キャンパス医学部附属病院 外来臨床研

究棟入口)

※少雨決行。荒天時中止。雨天時は電話かHPで開催をご確認ください。

【問い合わせ】

埋蔵文化財調査センター

Tel. 096-342-3832

URL:<http://www.kumamoto-u.ac.jp/org/anizations/maibun/>



REPORT 「博士人材による発表会 in グランメッセ熊本」を開催

2月13日(木)、「魅せます 熊本大学博士人材の底力」と題し、「博士人材による発表会 in グランメッセ熊本」を開催。さまざまな分野の最先端の研究が一堂に会し、その卓越した研究成果を博士課程の5人の院生たちが発表しました。「2014くまもと産業ビジネスフェア」と同時開催とあって、会場では企業関係者も熱心に耳を傾けていました。

世界で初めてヒトiPS細胞から立体的腎臓組織の作製に成功した熊本大学発生医学研究所腎臓発生分野博士課程4年・太口敦博さんは「一般の人にも分かりやすく伝えることに留意し、資料なども工夫しました。近年、発生医学分野への注目も高まっています。一人でも多くの人に興味を持っていただけたらうれしいですね」と、発表を終えて安堵の表情を浮かべていました。



「マウス発生学を生かしたヒトiPS細胞からの立体的腎臓組織作製の確立」をテーマに発表する太口さん

REPORT 本学の「旧第五高等学校化学実験場」が「化学遺産」に登録されました

本学黒髪北キャンパス内にあり国指定重要文化財でもある「旧第五高等学校化学実験場」が、(公社)日本化学会から「化学遺産」として認定を受けました。

化学実験場は、旧制第五高等学校本館と時を同じくして明治22年に完成しました。れんが造りの建物の内部には階段教室、薬品室、実験室が一行に並んでおり、階段教室は、学長が新入生を対象に行う「学長講義」で現在も使用されています。旧制高等学校時代の化学実験場としては完全な形で残る全国唯一の建物です。



REPORT 平成25年度の感謝状贈呈・学生表彰を行いました

平成25年度の課外活動指導者に対する感謝状贈呈、および学生表彰を行いました。平成14年度から続くこの表彰制度では、学術研究や課外活動において優秀な成績を修めた、または顕著な活動が認められた学生や学生団体を表彰しています。また、課外活動指導者に対する感謝状の贈呈も合わせて行っています。平成25年度は課外活動指導者2名に感謝状を、個人26名・4団体に表彰状を授与しました。

学生表彰者(学業成績優秀者除く)

課外活動指導者に対する感謝状贈呈者

【団体】	団体名	大会等名	種目等名	成績
ダイビング部		第46回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	団体	優勝
		第20回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	大学対抗200mフリッパーリレー	優勝
航空部		第26回西部学生グライダー競技会	団体	優勝
柔道部		第55回全国国立大学柔道優勝大会	団体	3位
LinKuma オープンキャンパス 2013向上委員会		平成25年度 学生企画支援事業「きらめきコースプロジェクト」 事業名：オープンキャンパス学生企画		最優秀

指導者名	指導期間	指導団体名
尾方 山工	47年	弓道部
金村 康正	9年	テコンドー部

【個人】

サークル名	氏名	所属	学年	大会等名	種目等名	成績
ボート部	山領 夏実	工学部	4年次	第68回国民体育大会	成年女子 ダブルスカル	優勝
ボート部	山本 彩加	教育学部	1年次	第68回国民体育大会	成年女子 ダブルスカル	優勝
ダイビング部	井上 紗綾	法学部	2年次	第46回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	女子 50m	2位
ダイビング部	宝満 正郁	法学部	3年次	第46回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	男子 50m	優勝
ダイビング部	岩崎 真和	理学部	3年次	第46回関東学生潜水連盟フリッパー競技大会	男子 400m	優勝
ダイビング部	福山 徳明	法学部	2年次	第20回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	50m フリッパー年代別	3位
ダイビング部	田中 龍二	教育学部	2年次	第20回全日本スポーツダイビング室内選手権大会	50m フリッパー年代別	2位
テコンドー部	神垣 貴晶	工学部	4年次	第11回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 -54kg級	優勝
テコンドー部	甲斐 法久	工学部	3年次	第11回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 -58kg級	優勝
テコンドー部	工藤 雅生	教育学部	3年次	第11回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 -63kg級	優勝
テコンドー部	小谷 智樹	教育学部	3年次	第11回全九州学生テコンドー選手権大会	男子 +68kg級	優勝
テコンドー部	川上 あす美	工学部	3年次	第7回全日本テコンドー選手権大会 西日本地区大会	女子 -49kg級	3位
テコンドー部	川上 あす美	工学部	3年次	第11回全九州学生テコンドー選手権大会	女子 -49kg級	優勝
ボクシング部	丸山 勇貴	教育学部	1年次	九州大学ボクシング新人選手権大会	フライ級	優勝
ボクシング部	福田 裕規	法学部	4年次	九州大学ボクシング新人選手権大会	ライトフライ級	優勝
陸上競技部	中尾 有沙	教育学研究科	2年次	第68回国民体育大会	成年女子 三段跳	2位
				2013日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 三段跳	3位
				第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子 三段跳	優勝
				第41回九州学生陸上競技選手権大会	女子 三段跳	優勝
				第68回九州陸上競技選手権大会	女子 三段跳	優勝
陸上競技部	高瀬 怜奈	教育学部	3年次	第68回九州陸上競技選手権大会	女子 走幅跳	優勝
				第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	女子 七種競技	優勝
陸上競技部	鈴木 祥	教育学研究科	2年次	第68回九州陸上競技選手権大会	女子 七種競技	優勝
				第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子 4×400mリレー	優勝
陸上競技部	高岡 晃	教育学部	4年次	第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子 4×400mリレー	優勝
陸上競技部	立石 卓也	工学部	3年次	第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子 4×400mリレー	優勝
陸上競技部	岩本 大貴	教育学部	4年次	第83回九州学生陸上競技対校選手権大会	男子 4×400mリレー	優勝
陸上競技部	平野 隆之	理学部	4年次	第41回九州学生陸上競技選手権大会	男子 5000m	優勝
				第63回九州地区大学体育大会	男子 10000m	優勝
弓道部	古賀 一樹	教育学部	3年次	第59回東西学生弓道選抜対抗試合		優勝
弓道部	山下 慶介	教育学部	3年次	第51回九州学生弓道選手権大会		男子 最優秀射士賞
少林寺拳法部	持原 光景	理学部	3年次	第44回全九州学生大会	男子二段以上組演武の部	優勝
					男子有段単独演武の部	優勝
少林寺拳法部	西本 紘大	文学部	3年次	第44回全九州学生大会	男子二段以上組演武の部	優勝
少林寺拳法部	山崎 蓉佳	文学部	3年次	第44回全九州学生大会	女子運用法の部	優勝

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

No.24(平成25年12月1日～平成26年2月28日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約5億5407万円(平成26年2月28日現在)のご寄附をいただき、臨床医学教育研究センター建設や本学学生の留学支援、課外活動支援、60年史編纂事業等、研究・教育に資する事業に取り組みさせていただきました。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成25年12月1日から平成26年2月28日までの間に入金を確認させていただきました個人29名の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者の皆様

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【100万円】	黒木 政秀	【50万円】	安東 俊治
【20万円】	谷口 功(240)	【10万円】	菊池 健(120) 藤井 博行(40)
【5万円未満】	志鶴 昭久		

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者の皆様

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

猪鹿倉 みゆき	出田 秀尚[5]	宇佐美しおり[13]	迫村 紘子	高木 智宏	西垣 慎一
波多野 恭行	福田 康敏[3]	本多 三男	町田 和美[6]	両角 光男[4]	吉野 達雄[3]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人11名

INFO

「九州連合同窓会設立記念式典・祝賀会」が開催されます

九州、沖縄及び山口地区の同窓生の学部を越えた親睦を図るため「熊本大学九州連合同窓会」が設立されることとなりました。これを機に記念式典・祝賀会が開催されますので、皆様奮ってご参加ください。

日時／4月19日(土)14:00～

場所／ホテル日航熊本(熊本市中央区上通町2-1)

電話 096-211-1111(代)

対象／熊本大学同窓生・教職員ほか

参加費／6,000円(祝賀会参加者のみ)

申込方法／(1)お名前(2)ご住所(3)電話番号(4)卒業年(5)卒業学部(6)祝賀会への参加の有無を、郵送・Fax・E-mailのいずれかの方法により下記までお知らせください。

※会場の都合上、定員に達しましたらご希望に添えない場合がございます

【申込・問い合わせ】

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1

熊本大学マーケティング推進部 同窓会担当

Tel.096-342-2029 / 3129(平日9:00～17:00)

Fax.096-342-3149

E-mail:kik-doso@jimu.kumamoto-u.ac.jp

URL:http://www.kumamoto-u.ac.jp/sotsugyousei/dousoukai/

kyusurengo/20140419kyusyuu

REPORT

『熊本大学60年史』通史編・別編を刊行しました

本学では3月3日(月)に『熊本大学60年史』の最終巻にあたる『通史編』及び『別編』を刊行しました。

『通史編』は、昭和24年の熊本大学発足から設立60周年を迎えた平成21年までの本学のあゆみを叙述したもので、その前史として熊本大学の前身となった戦前の6つの官立高等教育機関についても取り上げています。また、平成21年以降、現在に至るまでの本学の取り組みや、将来構想についても記述しています。

『別編』は本学出身の教職員の方々に学生時代がどのようなものであったか、座談形式で語っていただいたものをまとめたものです。本学学生の生活の一側面を垣間見ることができるようになっています。

『熊本大学60年史』各編は、本学関係者をはじめ本学と交流のある諸機関や県内の公共図書館及び高等学校等に配付しております。後日、本学附属図書館の学術リポジトリにおいても公開予定です。



刊行された『通史編』(右から2冊目)と『別編』(左)

Let's 熊大で生涯学習

- ・大人になったいまこそ学びたい、そんなあなたを応援します。
- ・生涯学習のために作られた公開講座や、正規の授業を学生と一緒に受講できる授業開放科目など、さまざまな生涯学習事業があります。
- ・気になるあなたは **熊大で生涯学習** で検索、または、お電話でお問い合わせください、詳しい資料をお送りします。

☎ 096-342-3121

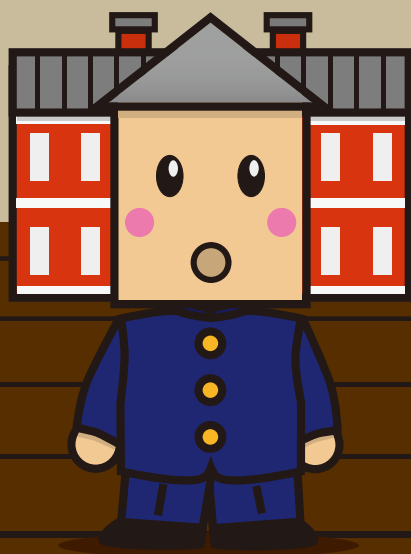
○月×日(月)

日直 健児くん

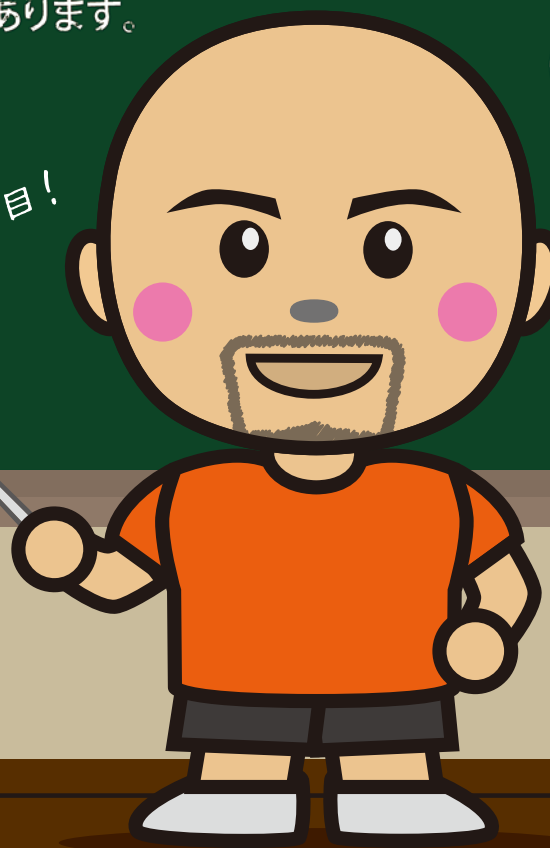
注目!

なるほどー

ほー



「WEB マガジン 熊大なう。」キャラクター <健児くん>



熊本大学では、地域に開かれた大学として、
本学が持っている人文・社会科学系、
自然科学系、生命科学系の各分野における
教育研究成果を生かした
さまざまな学習の場を提供しています。

大学で、生涯学習を。

公開講座

キャリアアップのための専門講座から生活の質を上げる教養講座、趣味の講座に至るまで、バラエティ豊かな講座を受講できます。

※順次開講予定。詳しくはお問い合わせください。

学生とともに学ぶ。

授業開放科目

熊本大学の「授業開放」は、本学の正規授業を学生とともに受講できる制度です。前学期・後学期の授業に合わせて年2回、受講者を募集しています。

※平成26年度前学期受講生募集は終了しました。後学期の募集は8月頃を予定しています。



熊本大学政策創造研究教育センター

(マーケティング推進部地域連携ユニット 公開講座・授業開放担当)

TEL.096-342-3121 FAX.096-342-3239

E-mail manabou@jimu.kumamoto-u.ac.jp

<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/syogaigakushu/top>